

日本鳥学会2017年度大会での山階鳥類研究所関係者の発表・話題提供・コメンテーター

【副所長・研究員・専門員等が参加している発表】

種類	日付	番号	タイトル	発表者	うち山階鳥研	シンポジウムタイトル	コーディネーター
シンポジウム	17日		アホウドリ移住計画はどこまで進んだ?	出口智広	出口智広	トキの放鳥から10年:再導入による希少鳥類の保全	永田尚志
	17日		太平洋地域のクイナ類の再導入	尾崎清明	尾崎清明	同上	同上

種類	日付	番号	タイトル	発表者	うち山階鳥研
口頭発表	15日	A11	セレーションの進化—フクロウ風切羽の幾何学的形態測定学—	○山崎剛史ほか	○山崎剛史
	16日	A16	絶滅ムコジマメグロのミトコンドリアゲノムの復元	○杉田典正ほか	山崎剛史
	16日	A19	半分青い～構造色発色機構を考える・イソヒヨドリの青いオスと青くないオス～	森本元	森本元
	15日	B05	伊豆諸島鳥島で繁殖するクオアシアホウドリ採餌行動	○西沢文悟ほか	富田直樹、佐藤文男
	15日	B11	東京都心のウミネコのビル街屋上繁殖および内湾 運河部橋梁での繁殖	○富田直樹ほか	○富田直樹
	15日	B14	長野県の千曲川で繁殖するコチドリ越冬地と重要な中継地	○笠原里恵ほか	森本元
ポスター発表	16日	P036	ヤンバルクイナの基盤使用行動と脳におけるウルストの発達	○中尾達郎ほか	山崎剛史
	16日	P042	形態的に異なる2タイプのチュウジシギ Gallinago megala の遺伝的關係	○小田谷嘉弥ほか	山崎剛史、齋藤武馬
	16日	P062	ミサゴ趾骨格の可動状況および比較形態学的解析	○萩野恭伍ほか	岩見恭子
	15日	P063	安定同位体比から見たオジロワシの長期的な食性の変化	○岩見恭子ほか	○岩見恭子、富田直樹
	16日	P080	絶滅した自然集団のDNA から生物が新しい集団形成を可能にする条件を探る	○青木大輔ほか	千田万里子
	15日	P087	2017年～2018年にかけてのシマアオジの調査及び保全活動	E.Syroechkovskiyほか	尾崎清明

種類	日付	番号	タイトル	話題提供者/主催者	うち山階鳥研	自由集会タイトル	主催者
自由集会	14日	W01	(コメンテーター)	平岡考	平岡考	絶滅危惧種シマフクロウの観光利用に必要なもの～失われた保全との「持ちつ持たれつ」関係～	早矢仕有子
	14日	W03	シマアオジ個体群のDNA分析計画について	齋藤武馬	齋藤武馬	シマアオジの調査と保全:ロシア・モンゴル・日本の野外調査と、2018年度国際鳥類学会からの報告	シンバ・チャン
	14日	W04	琉球列島研究の先駆者小川三紀・黒田長禮と幻の絶滅鳥ミヤコショウビン	平岡考	平岡考	島の鳥類学-南西諸島～鳥をめぐる自然史	水田拓ほか
	15日	W14	続・標識事業の現状とこれからについて	出口智広・森本元・千田万里子(主催)	出口・森本・千田	続・標識事業の現状とこれからについて	
	15日	W14	山階鳥研による研究成果(1)～標識調査結果と気象条件の関係(福島湯を例に)	出口智広	出口智広	続・標識事業の現状とこれからについて	出口・森本・千田
	15日	W14	山階鳥研による研究成果(2)～音声誘引で生じるバイアスの検証～	千田万里子	千田万里子	続・標識事業の現状とこれからについて	出口・森本・千田
	15日	W14	パンダーはどのような研究を行っているのか、その傾向	森本元	森本元	続・標識事業の現状とこれからについて	出口・森本・千田

(注)山階鳥研から特任/客員研究員のみが参加している研究のうち、それぞれの主たる所属の組織で行った研究をその所属で発表するものは除外しました。

\* = 特任研究員、\*\* = 客員研究員、\*\*\* = その他

○ = 演者(発表担当者)